

番組審議会

第644回

令和2年12月

■ 審議会の構成

委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 江 澤 佐知子 尾 縣 貢

萱 野 稔 人 喜田村 洋 一

佐 藤 智 恵 長 嶋 有

藤 原 帰 一 水無田 気 流

TBSテレビ 佐々木 社 長

渡 辺 常務取締役

伊佐野 常務取締役

岩 田 取締役

瀬戸口 編成局長

中 山 編成考査局長

鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長

岩 村 番組審議会事務局長

■議事概要

(1) 審議事項

- 1) 今年のTBSの番組全般及び放送界の動向について
特定の番組を対象とせず、TBSの番組やテレビ界の
現状に関して幅広く意見を募った。
- 2) その他

(2) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2 次回審議会の議題・日程及び2020年度の日程
について

【委員の主な意見】

◇ 今年印象に残ったTBSの番組

- 「終戦75年スペシャル第一部 女性たちの8・15」が印象に残った。
今年は戦後75年の節目だったが、コロナ禍により、その扱いは薄まった観
がある。そのなかで特番を組んで戦争体験と戦後の振り返りを行った局の姿
勢を評価したい。
- 今年印象に残った番組を一つあげるなら、文句なく「半沢直樹」だ。出演者
の演技の幅が広く、芝居のできる名優に敢えて記号化された人間を演じさせ
るという独特かつ贅沢な番組づくりを堪能した。
- 「半沢直樹」が良くも悪くもホモソーシャルな日本社会のデフォルメだとし
たら、「私の家政夫ナギサさん」は好対照をなすドラマで、旧来のジェンダ
ー観を一蹴しようとする気運に大きく寄与したように思う。
- コロナで「半沢直樹」の収録が間に合わず、急遽出演者が生出演した放送は、
テレビに出演する者も視聴する者も同じコロナのただ中において戦っている、
ということを共有できた、不思議で、かつ貴重な時間だった。
- 「東大王 生放送」は、リモート形態でここまで面白くできることに感心し
た。「V6の愛なんだ2020」は、コロナで試合や発表の場がなくなった
生徒に思い出に残る機会を提供することで、テレビにしかできない社会貢献

のあり方を示していた。

◇TBS全般および、今後のTBSに望むこと

- テレビ番組は昨今、ネットの後追いのような番組を目にするようになった。報道番組も、製作者が丹念に取材、検証したニュース番組と、ときにフェイクが混じっていても誰も責任をとらないネットニュースのような類のものが、横並びに享受されている時代だ。それゆえにきちんと裏付けされた情報を世に現し、世に問うテレビの役割は大きいだろう。
- 『王様のブランチ』の新刊紹介のような、文化系の地味な情報を伝えてくれる番組があることが好ましい。「教養番組」という言い方があるが、教養というのは「知識」のことだけではないはず。「知識」を取り扱う際の「考え方」や「感じ方」にリーチする番組を望む。
- 朝帯の社会情報番組に特色がなく、前夜のニュースがそのまま流用されていたり、条件反射的に対応したと思える意味不明なコメントも多い。朝の時間帯の地上波テレビには過不足ない情報提供が期待されている。より一層充実した内容にしてほしい。

◇ 放送界全般について

- 今年は世界中でテレビ報道の力を実感した年だった。あらゆるメディアがコロナ関連ニュースを伝える中、その中心はやはりテレビであり、他メディアは、情報量、信頼性、速報性を総合した面でテレビにかなわなかった。テレビの存在感が増大する中でテレビニュースの正確性、中立性があらためて問われた年だった。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)